

民生福祉常任委員会記録

(所管事務調査分)

平成28年9月23日

【開催日】 平成28年9月23日

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午後1時～午後2時42分

【出席委員】

委員長	下瀬俊夫	副委員長	矢田松夫
委員	石田清廉	委員	岩本信子
委員	小野泰	委員	三浦英統
委員	吉永美子		

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

議長	尾山信義		
----	------	--	--

【執行部出席者】

健康福祉部長	河合久雄	こども福祉課長	川崎浩美
こども福祉課課長補佐	大瀨史久	こども福祉課主査兼子育て支援係長	別府隆行
こども福祉課保育係長	山田寿実子	こども福祉課非常勤特別職	冨永恵美子
こども福祉課臨時職員	北嶋祥子		

【事務局出席者】

事務局長	中村聡	庶務調査係長	島津克則
------	-----	--------	------

【付議事項】

- 1 議案第88号 建物等の取得について（こども福祉課）
- 2 所管事務調査 子ども子育て支援について

午後1時 開会

- 1 議案第88号 建物等の取得について（こども福祉課）
（記録については議案分に記載）

午後 1 時 5 0 分 休憩

午後 2 時 再開

3 所管事務調査 子ども子育て支援について

【議事の概要】

- ・ 7 月に開催した子育て世代を対象とした議会報告会で出た意見をもとに、子育て支援体制やファミリーサポートセンターの現状について調査
- ・ ファミリーサポートセンターについて
平成 20 年度から事業開始
市民相互で行う育児の援助活動で事前登録が必要
会員からの依頼により市のアドバイザーが提供会員とのマッチングを行う
依頼会員 277 人、提供会員 36 人、両方会員 24 人の合計 337 人
(27 年度末時点)

【主な質疑】

岩本信子委員 ファミリーサポートは登録していればいつでも利用可能か。利用料は幾らか。

別府こども福祉課主査兼子育て支援係長 提供会員が見つければ可能である。利用料は 1 時間 600 円。早朝、祝日等は 1 時間 700 円である。

矢田松夫副委員長 どのような利用が多いのか。

別府こども福祉課主査兼子育て支援係長 一時的な預かりや保育所、児童クラブへの送迎が業務のほとんどである。

岩本信子委員 夜間の対応はできるのか。利用時間が決まっているのか。

別府こども福祉課主査兼子育て支援係長 おおむね午前 6 時から午後 10 時までと実施要綱で決めている。

岩本信子委員 提供会員数が少ないが、何か問題があるのか。アンケート等取っているのか。

別府こども福祉課主査兼子育て支援係長 提供会員の確保は重要な問題だと認識している。さまざまな場でアピールし、他市の状況も調査しているが、どこも苦慮している状況である。

北嶋こども福祉課臨時職員 提供会員、両方会員に援助できる時間を調査したが、返信があったのが 10 名程度であった。2 月に困っていることに関して講習会を実施したが、車での送迎に関して保険がないという意見が多かった。

岩本信子委員 ファミリーサポートに保険はないのか。

川崎こども福祉課長 車に乗っているとき以外の活動については市で保険に入

っており、適用になる。

別府こども福祉課主査兼子育て支援係長 市で入っている保険はファミリーサポートセンター補償保険で提供会員の入院や死亡の補償、賠償責任保険として依頼会員の子供等のけがや入院、死亡の補償はあるが車に乗っているときは適用外である。

吉永美子委員 27年度の利用実績はどうなっているか。

別府こども福祉課主査兼子育て支援係長 410件の利用があった。26年度は217件であったので大幅増である。25年度は320件である。

吉永美子委員 提供会員に負担が掛かっているのか。

別府こども福祉課主査兼子育て支援係長 提供回数が一番多い方が32回、2番が31回である。

矢田松夫副委員長 山陽地区と小野田地区で利用者の状況はどうか。

別府こども福祉課主査兼子育て支援係長 利用回数の多い方を見ると山陽地区が多いという印象を持っている。

下瀬俊夫委員長 山陽総合事務所にファミリーサポートセンターがあった影響なのか。

別府こども福祉課主査兼子育て支援係長 そういう影響もあると思うが、正確なことは把握していない。

矢田松夫副委員長 今度、子育て総合支援センターに移転するが、今後の展望はどうか。

川崎こども福祉課長 子育て世代や子育てに関連する人が多く集まる場所でサービスのPRができるので、有効なのではないか。

岩本信子委員 会員同士の交流会はしていないのか。

別府こども福祉課主査兼子育て支援係長 毎年度実施している。

岩本信子委員 交流会にはどれぐらいの会員が参加しているか。

別府こども福祉課主査兼子育て支援係長 27年度は大人17名、子ども17名である。

川崎こども福祉課長 今年度は回数を増やし、会員以外にも参加を呼びかける予定である。

岩本信子委員 提供会員を増やすためにも回覧板等でファミリーサポートの現状や会員募集など出したらどうか。

川崎こども福祉課長 ファミサポ通信を年に数回出し、さんようおのだっこにも掲載している。提供会員を増やすために健康フェスタでブースを設けたときには10名の登録があり、提供会員も2名登録があった。そういうことももっとやっていきたい。

岩本信子委員 情報を出していくこと、多くの人に知ってもらうことが大事である。

石田清廉委員 事業の評価が低い気がする。何となく呼び掛けて応募がなかったでは済まないのではないか。明確な目標を設定したらよいのではないか。

別府こども福祉課主査兼子育て支援係長 事務事業評価では目標設定を会員の登録数と利用延べ件数にしており、26年度に比べると大幅増という評価である。

川崎こども福祉課長 子育てコンシェルジュがいろんなところに出向いてPRを行っている。

富永こども福祉課非常勤特別職 保健センター、児童館、保育園、幼稚園等の子育て支援グループにコンシェルジュのポスターとファミリーサポートのチラシを説明して配っている。

岩本信子委員 子育て世代ではなく、リタイヤしている世代の力を借りればよいのではないか。

富永こども福祉課非常勤特別職 そのとおりだと思う。母子保健推進員や民生委員がボランティアで来ているので、その方たちにもPR活動をしている。

岩本信子委員 自治会連合会で会員募集をお願いしてもよいのではないか。

下瀬俊夫委員長 ファミリーサポートセンターを多くの市民は知らないのではないか。子育て世代を対象にした議会報告会でもそのような意見が多かった。何か大胆に地域に入っていくなどそのような案はあるか。

別府こども福祉課主査兼子育て支援係長 27年度の活動内容は広報紙への掲載、FMサンサンきららへの出演、児童館、支所、児童クラブ、公民館へのチラシ、ポスターの配布、民生委員定例会へ出席し、制度の説明と会員募集、こども福祉課使用の封筒裏面へファミリーサポートセンターの広告掲載、就学児健診の際に制度説明、健康フェスタにブースを出展、会員の交流会実施などを行い、いろいろな手法で周知活動に取り組んできたつもりである。

岩本信子委員 PRする範囲が狭いと思う。運動会などの地区のイベントで配るなど地域に入っていってほしい。

川崎こども福祉課長 地域でのPR方法を考えていきたい。

下瀬俊夫委員長 保育所の世代から一歩進んだ小学校、中学校の家庭なら提供会員になり得る。コミュニティースクールの中に積極的に入り込んだらよいのではないか。それからリユースの取組は好評でもっと情報がほしい意見があった。もっと大々的にやってみるといえるのはどうか。

川崎こども福祉課長 リユースは昨年度、子育てコンシェルジュが子育て世代の声を聞いてくる中で要望が強かったというのを聞いて、今年3月の椿まつりで初めて行った。反響がよいので7月に厚狭複合施設で2回目を

行い、11月の健康フェスタでも行う予定である。子育て総合支援センター内でもリユース会は続けていきたい。

岩本信子委員 若い人はスマホで検索するので、そういう媒体でもPRしてもらいたい。子育て総合支援センターではリユース会ではなく掲示板等で常時情報を提供したらよいのではないか。

川崎こども福祉課長 さんようおのだっこがスマホに対応しており、アプリのプッシュ配信もしている。子育て総合支援センターについては掲示板等の手法も取り入れたいと思っている。

下瀬俊夫委員長 さんようおのだっこは県下でも3番目に閲覧数が多いサイトである。保護者から市役所に電話しにくいという意見があった。市役所は敷居が高いという人もいるので、こども福祉課の前にプレイランドを置くなど子供が遊べるような場も欲しいと思う。

岩本信子委員 ファミリーサポートの登録を民生委員のところでできるように検討してもらいたい。

午後2時42分 散会

平成28年9月23日

民生福祉常任委員会委員長 下瀬俊夫